



ミニトマトを栽培しているビニールハウスを訪ねると、多くの人が忙しく収穫に追われていた。今回のお目当てはミニトマト農家の跡取り・福岡忠司さん。

忠司さんは大学卒業と同時に家業を継いだ。いつ頃から後継者になることを意識しましたか？との質問に、「農業高校を出て大学で農業を学び、家業を継ぐ。これは中学の時に決めました。」と、さらりと話した。父親の背中を追いかけてきた忠司さんには当然のことだった。今年でミニトマト作り11年目となる忠司さんに、父親の背中が見えてきましたか？と少し意地悪な質問をすると、「11年目と言っても、ミニトマトを11回しか作っていないヒョッコなので、まだまだ全然。でも、叱られたっばなしだったのが、今では親父と話し合いながら栽培する

錦江に生きる

From young people in the future

◎このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。第41回目は、上之宇都自治会の福岡忠司さんです。

◎41人目

ふくおか ただし
福岡 忠司

さん【上之宇都自治会】



収穫前のミニトマトの出来に満足げな表情を浮かべる忠司さん。

ようになったので少しは成長したかな。」と笑った。そして、忠司さんには農業に関する苦労が全くないらしい。それは、農業が楽しくて仕方ないからだと言司さんは話す。忠司さんの家はインターン事業をはじめ、年間多くの学生の研修先となっているが、忠司さんは学生達にも良き兄貴分として、農業の楽しさを伝えている。

忠司さんの趣味は、バレエボール。毎週、仲間たちと心地よい汗を流し、もうひとつの趣味である『のんかた』を楽しんでいる。また、地域活動にも積極的に参加する一方、肝属地区のミニトマト部会の部長を務めたり、青年農業士会などに所属し、よりよい農業を目指し日夜頑張っている。

忠司さんは最近特に頑張っている。

いるらしいが、その理由は愛息・斗馬くんに恵まれたからだと言司さん。「ミニトマトから名前をもらったんです。トマトのとうま。」と笑った。別にふざけたわけではなく、ミニトマト農家の跡取りとしての期待や、忠司さん本人の覚悟なのだという。

最後に一言お願いすると、「まずは嫁、息子、そして両親に感謝したい。」と神妙に話し始めた。「みんながいてくれるから僕は頑張れます。まだまだ頼りないかもしれないけど、みんなが楽しく暮らせるように頑張ります。」と照れくさそうに話した。続けて「今、農業は『安心・安全』は当たり前。やっぱり、美味しくないといけない。だから、『おいしさ』でブランド化できるように頑張っていきたいです。家族で力を合わせて、もっともつと美味しいミニトマトを作るので皆さんよろしくお願います。」と力強く話した。

忠司さんは、甘いマスクの裏に熱い魂を持った家族と農業が大好きな好青年だった。

編集後記

●段々と寒さも増し、インフルエンザも出てくる季節です。予防接種を受けたり、手洗いうがいを徹底するなど、予防に努めましょう。

●町民運動会が大盛況のうちに開催されました。私の出場はリレーの一種目だけでしたが、広報マンとして写真を撮影する為に、会場狭しと走り回り、恐らく出場者以上に体力を消耗したのではないのでしょうか。来年からは二人体制で臨めたら良いのにな。と甘えた考えがよぎる今日この頃です。

●選手の皆さん、応援の皆さん、大変お疲れ様でした。

●最近、「ランチェスター理論」について学ぶ機会がありました。単純に言うと、大手の洋服販売店が隣同士にあるのにどちらも潰れず、売り上げを伸ばしていくことも、この理論に当たるそうです。まだまだ勉強不足ですが、これからの「まちづくり」など、錦江町をより良くしていくためには必要なことなのではないかと感じました。



発行／錦江町役場

■編集／企画課 〒893-2392 鹿児島県肝属郡錦江町城元963番地 tel.0994-22-3032 fax.0994-22-1951

■ホームページ／<http://www.town.kinko.lg.jp/> ■印刷／(有)南大陽新生社印刷

